鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科
心理臨床学専攻　心理臨床相談センター

相談センターだより

第６号　2010. 5.発行

“おにぎり”の力

宮崎駿監督の映画「千と千尋の神隠し」の中で印象深い一コマがあります。これは、小学生千尋が、両親とはぐれ奇妙な温泉宿で一人働きながら成長する姿を描いた物語です。ご覧になった方もいらっしゃるでしょう。

千尋は、両親を探す間もないまま、温泉宿で無我夢中で働き続けていました。それから数日後、ハクという少し年上の男の子が励ましにやって来て、おにぎりを渡してくれます。食事をとることも忘れ働いていた千尋は、ハクの横に座っておにぎりをパクパク頬張りながら（半分以上は食べたような）泣き出します。

‘ああ、この子やっと泣けたなあ‘と私ももらい泣き。この後二人はそれぞれの役割に戻り、たくましく成長していくのですが、この数分間の場面の中で描かれていることは、心細さの中、奮闘していた千尋の心をなぐさめ、勇気づけたのは、ハクと小さなおにぎり。・・・その子を思い、瞬時に差し出される身近な物は、余りにありふれていて記憶としては残りにくいかも知れないけれど、確実にその子の心に染み入っていくというメッセージのように感じられました。

大人の私でさえも、出されたお茶一杯がどんな物よりも労いになったり、飾られた花一本に迎え入れられた喜びを感じたりする時があります。子どもであればなおさらのこと、自分の為にしつらえられた物は、ありふれていても特別な物になることでしょう。

映画の中の“おにぎり”のように、子どもたちにとって慰められたり勇気づけられたりほっとしたりする瞬間が、日常の中にたくさんあって欲しいと願ってやみません。

客員相談員　　新屋敷　敏恵

一口メモ

うらをみせ　おもてをみせて　ちるもみじ
良寛

清らかな深い静けさ，明るさは，これが辞世の句だからでしょうか。

けれど同時にこの歌は，明るく，声をあげてひたすらに遊ぶこどもたちのイメージを喚起してもくれます。共通点は，無邪気。邪気が無い，ということでしょうか。

相談員　　藤田　千鶴子